

令和6年度 八浜中学校経営計画書

○本校のミッション(使命、存在意義)

本校は、地域社会に貢献する多くの人材を輩出しており、家庭や地域の教育力は高い。さらに、学校教育に対する関心や期待も大きく、学校には協力的である。また、生徒指導上の課題は減少し、ほとんどの生徒は落ち着いた学校生活を送ることができているが、不登校生徒は多い。

保護者や地域の期待に応えるためにも、きめ細かな指導による「分かる授業」を展開し、生徒会活動や学校行事、更には部活動等を通して、「確かな学力」と「豊かな心」の育成を図り、「創造力」と「解決力」を身に付けた「自己教育力」にあふれた人物を育成する。

また、ICTの活用により、個別最適化された課題の提供を行い、学力の向上を図る。

○内外の環境分析

○生徒は落ち着いた態度で学校生活を送ることができている。また、素直で協調性もある。しかし、自主性や積極性に欠ける面もみられる。仲間意識が強く結束力があり、学校行事や委員会活動等で、集団としての大きな力を発揮している。多少の改善はあるものの不適応、学力不振、怠惰、人間関係のもつれから不登校になる生徒が数名いる。

○保護者や地域の人々の学校への関心は高く協力的である。コロナ禍で停滞している保護者・地域との緊密な連携が必要である。

○教職員は経験年数10年未満が多いが、ミドル層がいない。若手とベテランの関係性はよく、同僚性が高い。教職員のやる気を大切に、積極的に研修に取り組むことで、個々の力量と集団としての指導力を更々に高めていきたい。

○本校は開放型の校舎であり、学校の管理や生徒の安全確保に配慮が必要である。更に美化活動を充実させ、美しい環境を作っていきたい。

○ミッションの追求を通じて実現しようとする本校のビジョン(将来像、目指す姿)

<めざす学校像>

- ・あいさつと笑顔のあふれる学校
- ・けじめがあり、落ち着いた雰囲気のできる学校
- ・生徒や保護者、地域に信頼される学校

<めざす生徒像>

- ・学ぶことの意味を知り、進んで学習に取り組む生徒
- ・認め合い、支え合い、高め合う人間関係づくりに取り組む生徒
- ・安全で健康な生活をし、たくましい体づくりに取り組む生徒

<めざす教職員像>

- ・生徒・学校・地域を愛し、誇りを持って生活できる学校づくりに励む教職員
- ・生徒・家庭・地域の教育的な課題やニーズを汲み取り、迅速な解決のために励む教職員
- ・働き方改革を実践し、いつも元気で資質・能力の向上や改善に励む教職員
- ・自らのライフワークバランスを考えた働き方改革の実践する教職員

○当該年度の具体的な学校経営目標・計画

◎ 確かな学力の定着

- ・「八浜中学校授業ルール」を更に徹底し、授業の充実を図る。
- ・授業と家庭学習の連携～自ら学びに向かう生徒の育成を目指して～
- ・単元計画の連動した課題設定(「先行学習型」「復習型」など)
- ・ICTを導入した協働学習の充実
- ・家庭学習を定着させ、具体的な個に応じた勉強の仕方の指導する。
- ・中学校区一貫的教育を目指し、小中連携を更に推進させ、9年間を見通したキャリア教育・学力向上を目的とした取組を行う。

◎ 豊かな心と「人間力」の育成

- ・QUを効果的に活用し、学級を基盤とした望ましい集団づくりを実践する。
- ・学級活動や行事等を通して、夢に向かって、粘り強く努力し、進取果敢に挑戦する生徒の育成を図る。
- ・道徳教育を充実させるとともに、様々な場面で人権教育を推進し、人権意識の高揚を図る。
- ・保護者や地域との協働体験やボランティア活動を通して、コミュニケーション能力や豊かな心を育む。

◎ 基本的生活習慣の確立

- ・学年や学級にとらわれず教職員全員で全校生徒を指導する体制を確立する。
- ・「あいさつをする」「時間を守る」「人の話は相手を見て静かに聴く」ことを徹底して指導する。
- ・メディアの使用に関して、自己制御(セルフコントロール)ができるよう、指導に努める。

- ・積極的な生徒指導ときめ細やかな教育相談を実施する。
- ・不登校生徒の不登校解消に向けた指導を継続する。別室登校など、個に応じた多様な登校を模索する。

◎ 保護者・地域との信頼関係の構築と開かれた学校づくり

- ・地域の行事には、生徒が積極的に参加する。
- ・「幸吉フェア」にボランティアとして参画させることで、地域との協働を進め、地域との信頼関係を深め、「地域で子どもを育てる」という土壌を醸成する。
- ・各種通信類やHPを活用し、保護者や地域への情報発信に努める。

◎ 教職員の資質向上と学校力の向上

- ・「授業と家庭学習の連携～自ら学びに向かい生徒の育成を目指して～」の研究実践を通し、単元計画と連動した課題設定をするなど、教職員個々の資質向上を図り、学校力の向上を目指す。
- ・自らのワークライフバランスを考えた「働き方改革」を実践する。
- ・新学習指導要領に沿って、指導と評価の一体化を図った授業実践をする。

◎ 特別支援教育の充実

- ・「授業のユニバーサルデザイン化」の原点に戻り、全教職員で特別支援教育の更なる充実を目指す。